

分科会	中2②地理	郡市名	岡崎
提案者	岡崎市立岩津中学校		杉山 彩

社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、

仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業

— 2年生地理的分野「身近な地域の調査」～岩津中学区開発最前線～の実践を通して—

岡崎市立岩津中学校 杉山 彩

1 はじめに

岡崎市の社会科部は研究テーマ『社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業』を受け、昨年度から授業実践をしてきた。昨年度の研究を通して得られた成果と課題を以下に示す。

<実践単元>	1年歴史「六ッ美北にも一揆があった！？徳川家康と家臣が対立した三河一向一揆のなぞに迫ろう」
<成果>	・子供の意識に矛盾を生み出す地域素材を教材化し、生徒の感想やつぶやきから学習課題を設定することで生徒に積極的に歴史的事象をとらえさせることができた。 ・歴史的事象に対する自分の考えや価値観を仲間とかかわらせることで、仲間の意見を取り入れつつ生徒自身の意見を深めさせることができた。
<課題>	・本単元を学習したことに対して、よりよい社会の実現のために自分にできることを考え、実践していこうとする姿勢を生み出すことができなかった。

この課題を受けて、本研究では社会的事象が起きる要因を明らかにするとともに、よりよい社会実現のために行動しようとする生徒の育成をめざすことにした。

2 研究主題のとらえ

近年、私たちをとりまく社会情勢が目まぐるしく動く中、様々な問題が生じている。そのため、生徒たちにも現状を正しく把握・認識する力を確実に身につけ、さらに積極的に自分が見出した問題の解決を図ろうとする姿勢が求められている。

そこで研究テーマである「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりあいながら問題の解決を図る社会科の授業」を以下のように考えた。

<p>「社会に参画していこうとする子ども」・・・「持続可能な社会」を実現するために、自ら進んで社会問題に関心を持ち、問題点を考え、多くの人と思いを共有し、協力したり対立を処理解決したりしながら、行動していく子ども。</p> <p>「仲間とかかわりながら」・・・学級の仲間とかかわり合うだけではなく、社会的事象にかかわる様々な立場の人の考え方を知り、多面的に考え、自分の意見を深めること。</p> <p>「問題の解決を図る」・・・身近な社会的事象から生まれた疑問を、意見交換や話し合いを通して問題としてとらえ、追究活動を行い、整理していくことで、自分なりの解決策を見出すこと。</p>

3 めざす生徒像

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象から生まれた疑問に対して仮説を立て追究活動を行うことで、情報を取捨選択し関連付けながら、自分たちが置かれている現状と課題を明らかにしようとする生徒。 ・学級の生徒や地域住民とかかわることで社会的事象に対する多くの考えを知り、根拠を比較することで自分の意見を明確に持つことができる生徒。 ・将来の社会のあり方について自分事としてとらえ、多くの人が安心して暮らしていくために必要なことを考え、行動しようとする生徒。 |
|---|

以上に基づいて、岩津中学区の商業の現状と課題を題材とする研究実践を行った。

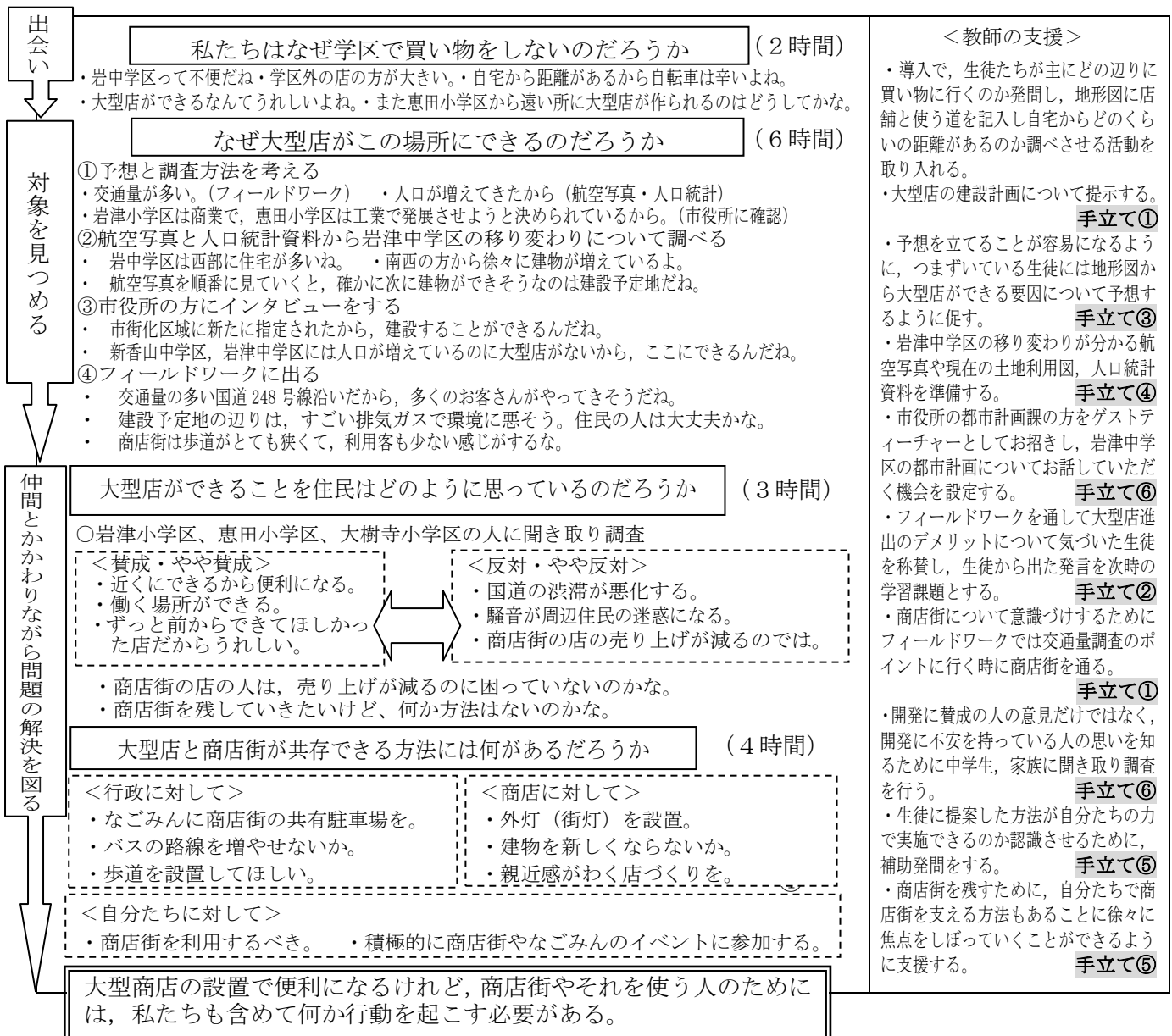
現在、岩津中学区で最も開発が進んでいる北西部（国道248号線沿い）では、新たに市街化区域に指定されたことにより、大型店が着工することになっている。市は、この大型店に北部地域の商業拠点としての役割を期待している。一方で、住民からは買い物が便利になる、雇用が期待できるという声とともに、交通渋滞が悪化する、治安が悪くなる、商店街が更に停滞するという声も聞かれる。

そこで、大型店が進出する背景と課題を探るとともに、既存の商店街に生きる人々も含め、学区住民が安心して暮らせる将来にするために必要なことについて考えさせていきたい。

4 研究の仮説と手立て

- 【仮説1】岩津中学区の商業の現状と課題に迫ることができるよう単元を構成することで、見出した課題を生徒がより身近な問題として捉え、意欲的に学習に取り組むことができるだろう。
- 手立て① 追究意欲を引き出すため、生徒たちの期待が大きいためであろう大型店と、普段あまり意識していない商店街を比較させることで問題意識を高める。
- 手立て② 単元に対する生徒の意識を継続させるために、授業日記や発言の中で出されるであろう疑問を予想し、次時の学習課題に設定する。
- 【仮説2】商業を切り口に学区の姿を的確に把握・認識をすることで、学区の抱える課題を明確にとらえ、将来の岩津中学区の姿を自分とのかかわりにおいて考えることができるだろう。
- 手立て③ 自ら進んで問題を解決しようとする意識を高めさせるために、大型店ができる要因について予想を立て、考えた調査方法を実行させる。
- 手立て④ 学区の発展の様子を知ること、学区の現状を意味づけたり、将来を考えるきっかけとしたりするため、航空写真等の資料を揃えて比較する。
- 【仮説3】学級の仲間や学区住民とかかわることで、大型店の進出や商店街に対する様々な考えを理解し、岩津中学区の将来について自己の考えをさらに深めることができるだろう。
- 手立て⑤ 生徒各自の考えを再構築させるために、話し合い活動において意見の矛盾や、実現の可能性について、立ち止まらせるべき場面をとらえ、生徒たちに問い返していく。
- 手立て⑥ 出店予定の大型店による生活への影響や期待を様々な立場から追究するために、市役所職員の方、学区住民の方へ聞き取り調査を行う。

5 指導計画 (15 時間完了)



6 抽出生徒

抽出生徒として生徒A、Bの二人の変容を追いながら、仮説に対する手立ての有効性を検証していくことにする。二人の実態については以下の通りである。

生徒A…様々な資料を比較し考えることができる。自分の信念や考えを変えることが少ない。学区への愛着が薄く、既に将来は学区を出て行きたいと考えている。
生徒B…資料読み取りに意欲的だが、複数の資料を同時に読むことが苦手。学級のオピニオンリーダーである。学区に愛着があり、発展してほしいと常々感じている。

7 授業実践

(1) 学区外に買い物に出かける現状に気づく生徒（第1～2時）

はじめに、生徒たちと週末によく何をするか話をした。すると部活動の次に、「買い物」が多いということが分かった。そこで生徒たちに岡崎市の2万5千分の1の地形図を渡し、よく利用する商業施設を2万5千分の1の地形図にマークをするように促した。そして、その地形図から分かったことをまとめ4人グループ内で発表させた。

- ・スーパーは家から近い学区ぎりぎりの店を使う。
- ・大型ショッピングセンターは大きな道（国道248号線）沿いにある。
- ・自分の家より南に店がある。

【資料1】生徒Aが第1時で分かったこと

- ・イオンやアピタなどショッピングモールは、市街地に多い。
- ・スーパーは家がたくさんあるところに多い。
- ・みんなが行く店は近くて中くらい、遠くにある店は大きいところだ。

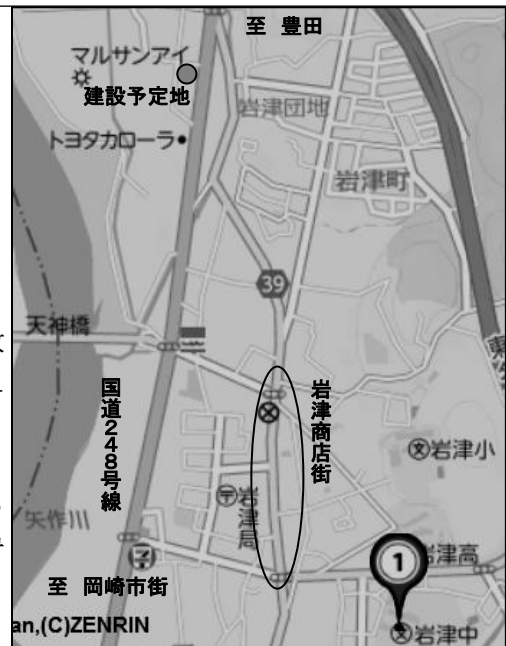
【資料2】生徒Bが第1時で分かったこと

学級内では、定規で直線距離を測り「自宅から3km圏内のところのスーパーをよく使う」という意見が出た班から全体にこの意見が広まり、距離について詳しく検証をする班もあった。しかし、生徒Aは本時において学区外で買い物することに対して、疑問も興味も持っていないようだった。

みんながよく行く店はだいたい同じところだった。自分の家よりも南の方に大型ショッピングセンターやスーパーがある。

【資料3】生徒Aの第1時授業記録

第2時では、教師が前時、学級で出た店を地図にまとめたものを提示した。すると、ある生徒が「学区外が多い。」という発言をした。そこで、学級全体で「岩津中学区でほとんど買い物をしない理由」について意見交換をした。すると、多くの生徒が「学区にあるスーパーは外れにあるので自転車ではのぼり坂がきつくて不便だから。」「車で移動するなら、品揃えがよい隣の学区のスーパーの方が便利だから。」という意見を挙げた。そこで、教師が「学校の近くにある商店街を使えばいいのではないか。」と発問をすると、生徒Bを含め数人が「商店街はさびれているから使う気にならない。」と答えた。また、約8割の生徒が「商店街に買い物に行っていない。」と答え、恵田小学区（山間部）の生徒は、「商店街があることしか知らない。」と発言した。そこで教師が「まもなく、この学区で大型店ができることを知っているか。」と尋ねると、半数の生徒が知っていると答え、生徒Bは地形図に出店予定地をマークし、仲間に教えていた。多くの生徒が大型店を歓迎する一方、恵田小学区の生徒が「また、私の家から離れているなあ。なぜここなの。」というつぶやきを発した。



【資料4】岩津中学校周辺地図

そこでこのつぶやきから、なぜ大型店が岩津中学区の北西にできるのか次時から調べることにした。

(2) 大型店が学区北西にできる要因について調べる生徒（第3～8時）

① 予想と調査方法の設定

本時では調べ学習に対する生徒の意欲を高めさせるために、なぜ学区の北西に大型店ができるのか予想を立てさせ、どのような方法で調べるか考えさせた。一人では予想を立てることが困難な生徒に対しては、机間指導中に地形図から予想できることがあるのではないかと教師がアドバイスをして生徒の活動を支援した。学級から挙げられた主な予想、調査方法は以下の通りである。

- ・岡崎市の中でも車が多く走る 248 号線沿いに作れば、店に人が集まるから。⇒交通量調査を行う。
- ・岩津小学区は商業で発展をめざし、恵田小学区は工業で発展を目指そうと考えているから。⇒市役所の人に聞く。
- ・岩津～仁木町の辺りでは、店がどこにもないから。(生徒 B) ⇒地図、航空写真などの資料で調べる。
- ・岩津中学区や周辺地域の人口が増えてきているから。⇒人口統計資料で調べる。
- ・この予定地は、広い平らな田んぼが広がっていてコストが安そうだったから。
- ・予定地は、平らで坂がないので市営住宅に住んでいる高齢者も徒歩でも楽そうだから。(生徒 C)

フィールドワークで広さを実感する。
学区の人に聞き込み。

下線部に関しては、地形図を根拠として立てられた予想であり、教師の支援によって立てられた予想もあった。そして、この予想を基に次時から大型店がこの場所に立てられる要因について調査を行うこととした。本時の授業日記では、生徒 A・B 共に山間部である恵田小学区の住民を心配していることが分かった。また生徒 A は、国道 248 号線でも豊田方面から来店する客にとって大型店は反対車線沿いに建設されるので客が集まりづらいのではないかという予想も立てていた。そこで、恵田の土地利用については、市役所の都市計画課の方に話をしていただけるよう教師が予めアポイントをとることにした。

……岩津町や仁木町の人には便利だけど、やっぱり恵田の人からしてみると百々のスーパーとあまり変わらないと思う。豊田の人にとっては逆方向に店ができるから使いづらいのではないだろうか。

【資料 6】生徒 A の第 3 時授業日記

市営住宅に住んでいた自分と今住んでいる C さんの思っていることは一緒である。恵田の人たちはかわいそうだ。大型スーパーは、ある一定の距離間隔で出来るべきだと思った。おばあさんや主婦などが楽になるといいな。

【資料 7】生徒 B の第 3 時授業日記

②資料から人口増加を確信し、仮説を立証する生徒

第 4 時では、学区の航空写真と人口統計資料から学区の変遷について調べる活動を行った。教師が昭和 32 年から平成 24 年までの航空写真を市役所から取り寄せ、人口統計資料は市役所の HP から見やすくなるように少し情報を取捨選択したものを準備した。生徒が資料を読み取った結果、

- ・南西から徐々に住宅地や主要道路が増えていること
- ・住宅地の増加に伴い、学区住民が増加していること
- ・商業施設は、国道 248 号線の南から新しくできていること
- ・商店街付近は昔から店（住宅）が存在していること

が分かった。これらから、【資料 9】の授業日記にあるように住宅地・人口増加により大型店が必要になったのではないかという結論に生徒は至った。また、航空写真から国道 248 号線沿いで、次に大型店が建設できそうな場所が該当地域のため、市が計画したのではという考えも生まれた。



＜写真 1＞航空写真の読み取り

人や住宅は増えていると思う。統計資料や航空写真を見ると、人口が少ない地域は山間部にあるようだ。

【資料 8】生徒 A の第 3 時授業日記

やはり、人口と住宅地は増えていることが分かった。住宅地が増えることで人口が増えているのだと思う。人口が増えることは大型店ができることの一つであると考えます。

【資料 9】生徒 B の第 3 時授業日記

③市職員の方の話から都市計画について認識する生徒

本時では、岡崎市役所都市計画課の方をお招きし、岩津中学区の土地利用について市ではどのようなプランで進んでいるのか講話をいただいた後、インタビューを行った。すると、以下のことが分かった。

- ・今回、大型店が建つ場所は 2 年前に市街化区域に指定され、将来、住宅地や商業施設が建設されることを期待している。
- ・商業拠点になるようなスーパーは一定の距離ごとにはできるといいと考えていて、新規店は北部地域の商業拠点になってほしい。
- ・恵田地区は、市街化調整区域のため大型店は建設できない。しかし、環境を維持していくためには市街化調整区域も必要である。

市役所の話聞いて、恵田小学区の生徒は、「市役所の人々が環境を守るためには、恵田のように緑豊かな場所も必要だと、市全体のことを考えて行っていることなら仕方がない。」という考えを持った。

④フィールドワークで大型店出店に対してデメリットに気づいた生徒

本時では、出店予定地周辺の交通量や土地利用の様子を調べるために、フィールドワークを行った。地形図と土地利用図をグループごとに配り、出店予定地まで徒歩で向かった。すると、中学校から出店

予定地まで徒歩 20 分かかること、また国道 248 号線沿いを歩くと 2 万 5 千分の 1 地形図では分からなかった緩やかな傾斜があることから「大型店周辺の方以外、高齢者の徒歩はしんどいのでは。」といった声が出た。

また出店予定地では、国道 248 号線に交差点を建設し、大型店の周辺に飲食店などの店舗が進出することを示した看板が設置されていた。それを見た生徒 B は「自分が住んでいた市営住宅の辺りが都会になるんだ。」と興奮していた。一方、生徒 A は新しい交差点の建設工事により豊田市方面からも出入りが便利になることは認識できた。しかし、248 号線を見て「248 号線は排気ガスがすごいし、うるさいのが気になる。」とつぶやいた。そこで、教師が「大型店ができれば 248 号線はどうなってしまうのだろうか。」と疑問を投げかけると、生徒 A は「環境がさらに悪化して、渋滞も起こるかも。」と不安を見せた。そして、「大型店ができることはいいことなのかな。」と疑問を述べた。

交通量調査では、出店予定地に面している国道 248 号線と商店街を通る県道を走る乗用車数について調査を行った。その結果、片側 2 車線の 248 号線の方が県道よりも 2 倍以上も多く車が走っていることが分かった。そして、生徒たちは人が集まりやすいからあそこを選んだに違いないという結論に至った。



＜写真 2＞商店街を歩く生徒たち

また、県道に移動するにあたり、県道に面している商店街を歩かせることで商店街の様子について観察させる機会を持った。すると生徒 A を含め数人の生徒が「商店街は歩道が狭く、2 列で歩くのがやっとなで怖い。」という言葉を出した。また、岩津商店街に買い物に来ている人が少ないことや営業していない店が多くあることに生徒は気づくことができた。

（3） 大型店に対する住民の思いに迫ろうとする生徒（第 9～11 時）

生徒 A をはじめ、フィールドワークを通して排気ガスの匂いや商店街の歩道の狭さを体験したことから、学級の中で大型店ができることは交通量を増加させ、環境が悪化するのでよくないと考える学区住民がいるのではという考えが前時の振り返りで生まれた。そこで、学区の人は大型店ができることをどのように思っているのかという学習課題に設定し、大型店ができることについて賛成か反対かということとその理由について学区住民に聞き取り調査を行うことにした。

数日後、生徒がそれぞれ聞き取り調査で行ったことに対して学級内で意見の共有化が行われた。結果は【資料 10】の通りである。その後、聞き取り調査から思ったことを学級全体で意見交換した。すると

＜賛成＞

- ・気軽に行けるから賛成（岩津・20 代男）
- ・この辺になかったので高齢者のためにもいいと思う（岩津・40 代男）

＜やや賛成＞

- ・店の周りの人は喜ぶだろうからやや賛成。（大樹寺・30 代男）（恵田・50 代男性）
- ・いろいろ心配なことはありすぎるが、やや賛成（岩津・60 代女）

＜やや反対＞

- ・自宅からだよく利用する南と反対方向なので少し距離がありやや反対（岩津・30 代女）
- ・この場所だと恵田から遠いのもっと位置を考えてほしい（恵田・30 代女）
- ・248 と県道の合流地点が近いので渋滞にならないか心配（大樹寺・40 代男）

＜反対＞

- ・肉屋、魚屋が困るのではないだろうか。（岩中生）
- ・ただでさえ 248 号線は渋滞するのにできたらさらに悪化するから絶対反対。（岩津・40 代女）
- ・大きな店ができれば小さな店が売れなくなるから反対（恵田・40 代女）
- ・近くに住んでいるので騒音が心配（岩津・60 代女）

【資料 10】学区住民への聞き取り調査

と【資料 10】からいくら近くても岩津小学区に住む大人たちは、大型店について大賛成ではなく、何らかの不安があることに生徒たちは気づいた。また、個人店を営む家の生徒の話から商店街の人が困ると思ったのに、商店街にある徳島屋（菓子店）から聞き取り調査をした生徒の情報だと、店主の方がやや賛成を示していた。そこで、教師は徳島屋の未来について子供たちに想像させた。すると、生徒の中から徳島屋がつぶれるかもしれないのになぜ賛成なのかという疑問が生まれた。

そこで、次時ではその疑問を解決するために商店街の人は大型店出店に対してどのように思っているのかということについて、追究することにした。

授業日記では生徒 A は客観的に学区全体のことに問題点を考え、自分たち中学生が特に気をつけなければならないことを述べている点に対し（【資料 12】参照）、生徒 B は商店街の店舗のことを気にしている様子があった（【資料 13】参照）。また、どちらの生徒も 248 号線付近の渋滞について気にしている様子が見られた。

T:…ということで、全体を通して思ったことがある人はいる。
 C:岩小学区の大人の人は、絶対賛成という人はあまりいないね。便利なのに。
 T:他の人もそうかな。
 (岩小学区の紙を持った生徒が確認し、ほぼ全てがそうだと判明する。)
 T:なぜ大人は絶対賛成ではないのだろうか。
 C:騒音や渋滞が大変だから。
 C:悪い人のたまり場になったら住みづらいから…。
 C:渋滞は今もだし…。
 C:でも、徳島屋さん(【資料10】波線部)は、やや賛成なんだよね。
 (遠くでつぶやきが聞こえる)
 T:あ、今、なんて言った。
 C:いや、マドレーヌ屋さん、お店潰れちゃうかもしれないのにやや賛成だった。
 T:え、潰れちゃうの？
 C:そりゃ、絶対大型店にもお菓子コーナーはあるだろうし。1年生の子も言っていたし…。
 C:不思議だね。

【資料11】授業記録の一部(抜粋)

全体にはやや賛成の人が多く、店ができることで市営住宅や北斗台団地に住んでいる人はいいが、騒音や渋滞などの問題もあると思う。

また、中学生や高校生がたまって問題になると思う。私達は使い方をよく考えて利用するべきだと思う。

【資料12】生徒Aの第10時授業日記

調査をして「肉力」「魚力」が困るのではと思った。いい発見があった！

サッカーに行くときとかに、今も混んで遅刻したら大変なのでこれ以上の渋滞は絶対困る。(特に夕方)

しかし大型店ができることで主婦は助かる気がするんだけどな。

【資料13】生徒Bの第10時授業日記

第11時では、商店街の店がどのように思っているのか、教師が行った聞き取り調査を基に考えた。教師が聞き取りを行った理由は十分な時間が設定できなかったこと、店舗によっては生徒が来ることは困るという意見があったからだ。すると、店主が高齢者の方だと店をたたもうという人が増えていて、諦めをもっていることが分かった。しかし、店主が若い魚力(魚屋)では、質にこだわっているので大型店ができて魚に関して

は負ける気がしないという言葉が返ってきた。生徒たちは、魚力の店主の話を読むと「かっこいい」という声を挙げた。

そして、「商店街はこれからも続いていけそうか。」と教師が発問すると、ほとんどの生徒から「いろいろ考えれば大丈夫。」という意見が出た。そこで、将来も大型店と商店街は共存することができるのかということについて自分の考えをまとめる機会を設定した。

大型店と商店街は共存できると思う。なぜなら、近くに住んでいるお年寄りの方は商店街に買いに行く方が便利だと思う。そして大型店はいろいろなものがあるけど商店街の店はそれを専門にやっているから安さ重視の大型店よりもいいものが売っていると思うからだ。

【資料15】生徒Aの第11時授業日記より

もしも大型店ができたとしても商店街の売り上げが落ちることは少ないと思うから共存できる。なぜなら、大型店と比べて、その品一筋でやっているわけで、腕は確かに持っている。それを知っている近所の人達は、商店街で味が確かなものを買っていくに違いないと思う。それに魚力さんに関しては、「負ける気がしない」と言っているその気合いがあれば何とかかなと思う。

【資料16】生徒Bの第11時授業日記より

授業日記を書く段階では、多くの生徒が当初は「共存できる」としており、【資料15】【資料16】のように近所の人々がきっと利用してくれるという他人任せな考えを書いていた。そこで、教師は前回の調査の中で、大型店出店に伴う住民説明会に家族が参加した生徒に家族から聞いた説明会の様子を話させることにした。すると、大型店は近所の高齢者が何年前からも要望を出していたことがきっかけで建てられる店だということが判明し、生徒Aを含め、「共存できる」と楽観視していたほとんどの生徒が「共存できない」という意見に傾いた。だが、生徒の多くは商店街は岩津を代表するものであり、住んでいる人もいるので残していきたいという思いを口々に言っていた。

(4) 岩津中学区の将来について考える生徒 (第12時~15時)

第12時では商店街を残したいという生徒の思いから、大型店と商店街が共存できる方法について考える話し合い活動を行った。すると、以下のような方法が出てきた。

- ・恵田小学区までバスを通したり、移動販売車を出したりする。 ・商店街に駐車場を作る。
- ・商店街の店の配置を変える。 ・歩道を広げる。 ・街灯を増やして入りやすくする。

しかし、提案している方法が実現可能なのかと教師が発問すると【資料17】にあるように実現が難し

そうだという意見に傾くものが多かった。また、生徒Bは一部の店舗に駐車場があることを知っており、道路に関して商店街の人が望んでいるのかということに対して悩み始めた。

そこで教師から商店街の人が本当はどのようなことで困っているのか追究するために、第13・14時に商店街に聞き取り調査に行くことを提案し、実施した。生徒A・Bは、最初の聞き取り調査でやや賛成を示していた徳島屋の店主が考えていることを更に知りたいと思い、調査を行った。すると徳島屋の店主から過去に道路拡張について計画があったことを得たが、予算の関係で工事が止まっていることを知った（【資料18】参照）。

聞き取り調査を終え、他店での様子も聞いた生徒Aは授業日記で、商店街の人の楽観的な様子から自分たちが商店街を残そうと真剣に考えていることは無意味なのではと考えた。そして残さなくてもいいという考えに変化した。一方、生徒Bは徳島屋には将来に向けての展望があったので商店街は将来、明るい方向に進むのではと楽観的な見方になった。

C:自分で歩道を広げるとか言ったんですけど、でもこの道、めちゃくちゃ狭くてガードレールを設置するにも、車側も狭くなるから、難しいかも。

T:なるほどね。

C:つぶれた店を壊すにもお金がかかるし、なごみに貸し出してもらうにもたぶん数が少ないと思うし、不可能ではないと思うんですけどあまり車が入れないと思う。

C:バスを通して、車があったら車を使い大型店の方が安いから。

<中略>

生徒B:肉力とか徳島屋とか駐車場がある店の人は駐車場がほしいかと思っていないだろうし、道路を広げてほしいと思っているのは一般の通人だけでは・・・。

T:商店街の人は駐車場は望んでいないの。
生徒B:うーん・・・。

【資料17】第12時授業記録より

- ・大型店ができることは、地域の人にとってはいいことだからやや賛成。
- ・交通量が多い地域なので、これがきっかけで事故が増えないといいですね。
- ・本当はこの店を改装しようと思えば新しい土地も買ってあるが、周辺店や大家さんのことを考えるとすぐにはできない。
- ・以前は道路を広げる計画があったが、県の予算が不足商店街の手前で拡張工事が止まっている。

【資料18】生徒A・Bたちが徳島屋から聞き取った内容より

商店街の人たちは私たちが思っている以上に深刻に悩んではいなさそうだった。収入が減る問題とは別に周りの人の家のことや交通事故のことを心配していた。……

学区はもっと発展してほしいけど、私はどうせ田舎でバスも少ないし、バス停まで遠いし、駅も遠く遊びに行くところがない岩津学区からは出るつもりなのであまりなんとも思わない。別に（商店街も）残っていても使わないから残さなくてもいい。

【資料19】生徒Aの第14時授業日記より

やっぱり大型店ができることに不安がある人はたくさんいた。

…商店街は残していきたいものである。なぜなら徳島屋さんのように新しく土地を買って未来へのステップを踏み出している店もあるからだ。（少しく商店街も明るくなるのでは？）

【資料20】生徒Bの第14時授業日記より

第15時では商店街を本当に残していくべきか話し合いを行った。すると、多くの生徒が自分の主観としては残していきたいという意見だったが、当初は「店の人が望むなら。」「まだ利用しているお客さんがいるから。」と、未だに自分たちから商店街を何かをしようという考えに至っていなかった。しかし、今まで商店街を知らなかった恵田小学区に住んでいる生徒が魚屋の魅力について生き生きと話す姿を見て、前時、残さなくてもいいと言っていた生徒Aも魅力があるなら残してもいいのかもという考えを持ち、自分は使うことがないだろうが残したいと考えるなら積極的に使うべきではないだろうかという意見を発言した。すると生徒Aの意見をきっかけに、学級全体で自分たちが商店街をどのくらい使っているのか振り返った。そしてここから、自分たちも商店街を残すためには買い物で利用する必要があることに気づきはじめた。中でも、恵田小学区の生徒が本授業で商店街

C1:残していけるなら残していくべきだと思う。

T:あれ、前は共存できないって言っていたよね。

C1:お客もそこそこ多いし…。お客さんも来ていたから。

C2:僕は、商店街の人が続けたいと思えば続けられたいし、やめたいと思えばやめればいいと思う。

C3:(商店街の店)お金もないし、土地もないからそのままにしておくといいと思う。

C4:残していくべきとは言えないけど自分は残したい。理由は、魚力の魚がおいしそうだったので未来の人にも知ってほしい。

T:買いに行ってもいいくらいおいしそうだった。

C4:うん。

生徒B:自分も残していくべきだと思う。徳島屋さんのように新しい店を作ろうとしている人もいるのだから、残していきたいと商店街の人も感じている。

C6:実際に試してみるとめちゃくちゃいいものばかりだったから、チラシなどを作ってみるといいと思う。

生徒A:私はたぶん使わないけど、お店の人や残したいと思っている人は（店を）使うべき。

T:正直でいいね。みんなは使うかな。（生徒を見て）最近使ったのかな。あ、使ったんだね。

<中略>

T:肉力使う人？結構いるんだね。肉力以外は？

C7:徳島屋。

C8:徳島屋に行くくらいならコンビニに行く。

T:どうして、コンビニなの？

(つぶやきの中から、種類が豊富、入りやすい雰囲気があがった。)

T:なるほどね。

C4:僕、今まで、あんまり商店街のことについて知らなかったから。

T:どう？使ってみよう。

C4:使ってみよう。今度、まず買いに行くよ。

(歓声が上がる)

【資料21】第15時の授業発言より

について学習したことで、ぜひ利用してみたいという意味を表し、学級内から称賛されていた。

話し合い後の授業日記では、生徒Aは商店街を残したいのであれば自ら行動することも大切であることに気づいているが、生徒Aが残したいという思いが薄いため今後何かを行動するかは分からなかった。一方、生徒Bは商店街を残したいが、本時でも自ら行動しようという考えは見られなかった。

私たちが残していきたいと思っても、お店の人がやめると言ってやめてしまえば、商店街はそこまでなので残したいと思っている人が、よく使うようにするなどの何らかの行動をしないといけないと思った。商店街の店は専門的なので、大型店の方が一気に買いたい主婦には便利である。でも、残したいと思っている人がいるなら使ってあげないといけないと思う。

【資料22】生徒Aの第15時授業日記より

結局、みんな商店街を残していきたいと思っている。しかし、本当にみんな残していきたいと思っているのか。

商店街のあの通りは通りにくい。道を広げることは不可能だと思う。……店が入りやすく人が集まれるようにしていかないと。

【資料23】生徒Bの第15時授業日記より

8 研究の成果と課題

仮説1 岩津中学区の商業の現状と課題に迫る単元構成により、課題を自分たちの問題として捉え取り組むことができたか。

手立て①を行うことで、生徒にフィールドワークにおいて、商店街の衰退ぶりを感じさせることができた。そして、聞き取り調査から商店街にも住民が生活していることに気づかせ、大型店と商店街が共存できる方法を考えさせることができた。よって、将来の商店街の姿を自分たちの問題として捉えさせることができたと考える。

手立て②では、特に第7・8時のフィールドワークで生徒Aの「大型店ができることはいいことなのか。」という疑問を取り上げることで、第9時に学級全体で住民に聞き取り調査を行おうという意欲を高めることができた。

仮説2 商業を切り口に学区の現状を的確に把握・認識し、将来の学区をイメージすることができたか。

手立て③を実施した結果、【資料9】や第7・8時のフィールドワークにおける交通量調査のように、課題を意識して調査を行わせることができた。しかし、第3時における予想・調査方法を計画する場面では、教師が学習活動を強制してしまったので、生徒から自発的に計画させることができなかった。

手立て④から、第4時において航空写真や人口統計資料を関連付けて住宅地の増加とともに人口が増えていることを押さえさせることができた。また、市内の大型店は南からできているために北部地域では整備が遅れていたことも明らかにさせることができた。しかし、大型店と商店街の共存について考え始めたころから、地形図や航空写真を活用させられなかった。例えば第11時で商店街の道幅を広げる案を考えた生徒に航空写真で確認させれば、実現不可能なことをすぐに理解させることができたのではないかと考える。

仮説3 学級や学区住民と関わることで、大型店と商店街に対する様々な考えを理解し自己の考えを深めることができたか。

手立て⑤に関して、生徒A・Bともに当初、商店街を残すための策が行政や商店任せだった。しかし第12時の話し合いで教師がそれぞれの案が実現可能か考えさせたことにより、自分たちの策が不可能に近いこと（【資料17】）を気づかせることができた。また、第15時の話し合いにより生徒Aの残したいと感じるなら自らが動く必要があるという提案により、実現可能な策を考えさせることができた。

また、手立て⑥を行うことにより、市役所や多くの岩中生は大型店ができることに大きなメリットを感じているが、【資料10】から分かるように学区の大人や商店街の人は大型店ができることに対してデメリットを感じていることも理解させることができ、様々な立場の人の考えに迫らせることができた。

9 終わりに

新学期に入り、中学3年生の初めての授業の後、本学級だった生徒たちが教師に駆け寄り「春休みに商店街で買い物をしたよ。お店の人とも世間話をしたよ。」と楽しそうに話してくれた。その輪の中に生徒Aもいた。生徒Aは、「私も授業がきっかけで肉力で初めてコロッケ買ったんです。」と笑顔で話してくれた。生徒たちが商店街のために大きく動くことは、まだできないかもしれない。でも、まずは利用することで、自分たちが残したいと述べた商店街を活用してほしい。